

☆待降節第3主日(12月11日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

### 第一朗読 (イザヤの預言 35章 1-6,10節)

荒れ野よ、荒れ地よ、喜び躍れ  
砂漠よ、喜び、花を咲かせよ  
野ばらの花を一面に咲かせよ。  
花を咲かせ大いに喜んで、声をあげよ。  
砂漠はレバノンの栄光を与えられ  
カルメルとシャロンの輝きに飾られる。  
人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る。  
弱った手に力を込めよろめく膝を強くせよ。  
心おののく人々に言え。  
「雄々しくあれ、恐れるな。  
見よ、あなたたちの神を。  
敵を打ち、悪に報いる神が来られる。  
神は来て、あなたたちを救われる。」  
そのとき、見えない人の目が開き聞こえない人の耳が開く。  
そのとき歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。  
口の利けなかった人が喜び歌う。  
荒れ野に水が湧きいで荒れ地に川が流れる。  
主に贖われた人々は帰って来る。  
とこしえの喜びを先頭に立てて  
喜び歌いつつシオンに帰り着く。  
喜びと楽しみが彼らを迎え嘆きと悲しみは逃げ去る。

### 第二朗読 (使徒ヤコブの手紙 5章 7-10節)

兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨  
雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。あなたがたも忍  
耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。

兄弟たち、裁きを受けないようにするためには、互いに不平を言わぬことです。裁く方が戸口に立っておられます。兄弟たち、主の名によって語った預言者たちを、辛抱と忍耐の模範としなさい。

### 福音朗読（マタイ 11 章 2-11 節）

そのとき、ヨハネは牢の中で、キリストのなされたことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」

ヨハネの弟子たちが帰ると、イエスは群衆にヨハネについて話し始められた。「あなたがたは、何を見に荒れ野へ行ったのか。風にそよぐ葦か。では、何を見に行ったのか。しなやかな服を着た人か。しなやかな服を着た人なら王宮にいる。では、何を見に行ったのか。預言者か。そうだ。言うておく。預言者以上の者である。

『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの前に道を準備させよう』

と書いてあるのは、この人のことだ。はっきり言うておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。しかし、天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。

### 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

寒さが本格的になってきました。北国では雪が積もっているようです。真っ白な雪景色は美しく自然のすばらしさを感じますが、一方で雪かきなどの大変な苦勞があります。この冬に大きな事故がないことを祈るばかりです。待降節も半ばに入りました。今日は第一朗読でも読まれる通り、喜び（ガウデーテ）の主日とも言われています。昨年に引き続き今年も司祭は喜びの印

として「ピンクの祭服」を着ます。この喜びの原因は何でしょう。それは救い主の到来が近いから喜び待ちましょうという意味なのです。

### 第一朗読（イザヤの預言 35 章 1-6,10 節）

救いの神が来られるときの様子が目に浮かぶようなイザヤ預言者の言葉が並んでいます。ユダヤの砂漠ではその乾季が終わり雨が降ると草花は一斉に花を咲かせます。見事なくらい一斉にです。ですからお花のじゅうたんのようです。そのほかにも山々はお青く緑は茂り、苦しんでいた人々もその苦しみが取り除かれ喜び歌うとイザヤ預言者は語ります。救い主の到来は多くの喜びをもたらすのです。今日のマタイによる福音はまさにそのことを告げて、預言の成就を表しています。旧約の人々はこのような預言の言葉に励まされて、苦難の歴史を生き抜いたのでした。

### 第二朗読（使徒ヤコブの手紙 5 章 7-10 節）

今日の第二朗読はいつもと違って十二使徒のヤコブの手紙が読まれています。ヤコブはエルサレム教会で大きな力を持っていた使徒で、教会生活についての大切な指導をしています。今日読まれるところは信仰生活における「忍耐」についての導きです。人は待ちくたびれると、つい愚痴りたくなるものですが、ヤコブはそれを戒めています。当時の人々の生活体験に沿うように、農夫たちが秋と春の雨を辛抱強く待っている話を語り、主の再臨を辛抱強く待つように勧めています。

### 福音朗読（マタイ 11 章 2-11 節）

今日の福音では洗礼者ヨハネとイエスとのやり取りが語られています。洗礼者ヨハネはイエスの噂を聞いて「来るべきお方はあなたですか？」と弟子たちを送って聞こうとしています。それに対し、単に「そうです」とは答えず、ヨハネの弟子たちが見ていること聞いていることから判断してくださいと

答えられています。洗礼者ヨハネであればわかるとイエスは思われたのです。そしてそのヨハネについて称賛の言葉を告げているのです。「そうだ、預言者以上のものである、と」。洗礼者ヨハネがイエスの到来を告げる先駆者であるとも言っています。お互いが聖霊の力によって導かれている存在であることを示しています。マリアとエリザベトの胎にいるところからお互いを意識していたのでしょうか。ようやく顔と顔を合わせてみる時期が近いことを感じたのでしょうか。私たちもお互いが救い主を信じている者同士としてわかり合い語り合えるといいですね。私たちの世界もイエスを中心において理解し合える日が早く来ますように祈りましょう。

チューリップのじゅうたん（都市農業公園）

P.S.

今日は 9 時からゆるしの秘跡のために阿部神父様が来られていますので、ゆるしの秘跡を受けましょう。来週はミサの後、10 時ごろから降誕祭を準備する「黙想のためのお話」があります。田中次生神父様をご指導くださいます。

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光